

# 日本・東アジア研究プログラムの日本語授業

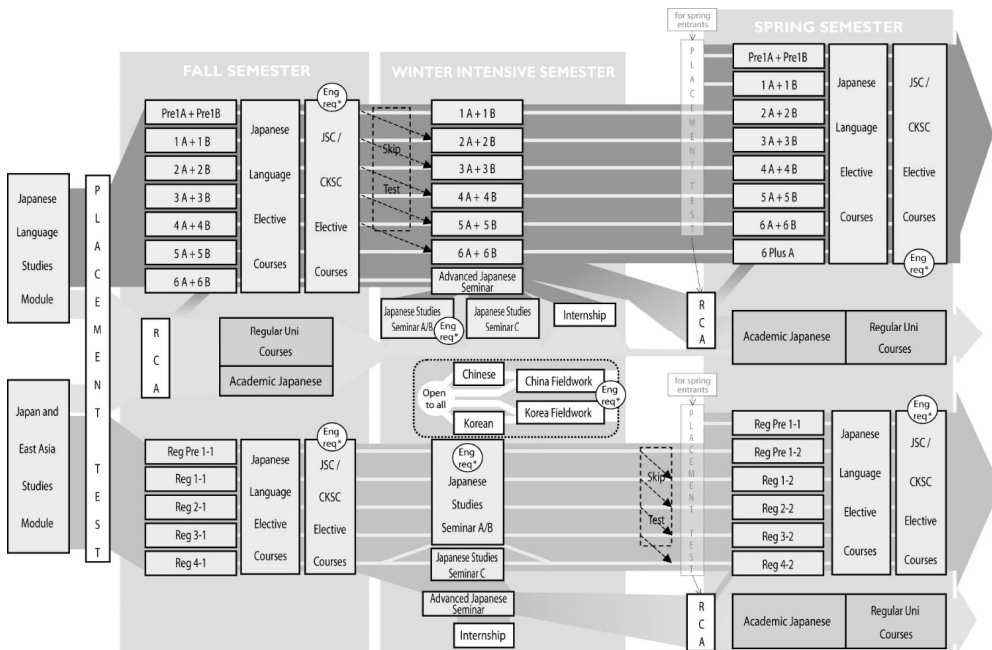
阿部 美恵子（関西学院大学日本語教育センター）

## 1. 日本・東アジア研究プログラムのカリキュラム

日本・東アジア研究プログラムの日本語は、短期交換学生と、本学に在籍する大学院留学生、国際学部の英語話者として入学した留学生とが履修している。

図1は本プログラムの日本語カリキュラムである。交換学生にとって日本語は必修科目である。留学の目的により、①日本語研究モジュール（日本語を学ぶことが主目的である学生向けのモジュール）と②日本・東アジア研究モジュール（日本・東アジアについて学ぶことが主目的である学生向けのモジュール）とに分かれ、モジュール選択に従い、「インテンシブトラック」と「レギュラートラック」に分かれて日本語を学習する。大学院留学生にとって日本語は選択科目であり、レギュラートラックの交換学生との混合クラスを履修する。国際学部に英語話者として入学した留学生は日本語が必修科目となる。初級～上級レベルの学生は交換学生のインテンシブトラックの学生と同じクラスを履修する。

図1 日本・東アジア研究プログラムの日本語カリキュラム



2012 年度にレベルプレ 1（ひらがな・カタカナの学習のみを終えている学生向けのクラス）やレベル 6 プラスを新設する等、大きな変更を加えたばかりであり、2013 年度はカリキュラムには変更を行っていない。

## 2. 日本人学生・日本人児童との交流

本プログラムで学ぶ学生のほとんどは 4 か月あるいは 10 か月という短期の日本留学であるため、授業内外で教師以外とも日本語が使えるような機会を提供している。

2013 年度には授業内での取り組みとして、LA（ラーニングアシスタント）やボランティアの採用を行った。導入したクラスは、アカデミック日本語（LA、春・秋）、総合日本語演習 A（LA、春）、総合日本語演習 B（LA、秋）、レベル 5B（LA、春・秋・秋集中）、レベル 6B（ボランティア、秋）である<sup>1</sup>。これらのうち、アカデミック日本語と総合日本語演習 A・B は学期を通じて LA が授業に参加した<sup>2</sup>。アカデミック日本語では LA と留学生と一緒にディベートの準備や試合、発表の評価を行った。総合日本語演習 A・B では新聞やリーフレット作成のためにディスカッション、インタビュー、記事執筆に取り組んだ。レベル 5B は各学期 1 回のみの参加であるが、クラス内で行っている敬語の運用練習を、実際に日本人相手に試すことができるよい機会となった。レベル 6B ではボランティアを募り、後半の複数回の授業で社会問題についての VTR を視聴した後にディスカッションを行った。

また、11 月と 1 月には初等部訪問を実施し、普段あまり接することがない年齢の子どもたちとも交流した。

授業活動の一環として授業外で日本人学生との交流が必要となる活動を取り入れたのは、レベル 4～6 の作文クラス、選択科目の現代日本文化クラス、文献講読クラスである。これらのクラスでは、授業の課題として日本人学生へのアンケートやインタビューを組み込んだ。

さらに授業外の取り組みとして、日本語パートナーを採用した。来日後の最初の学期に 1 名の交換学生に 2 名の日本語パートナーを紹介し、生活面でのサポート、週 1 回以上の日本語の会話練習を行っている。

## 3. 今後に向けて

本プログラムでは年々留学生数が増加している。これまではレベルの新設や、選択科目の増加で対応してきたが、さらに学生数が増えることが見込まれている。本プログラムが目指してきた「温かい教育」は失わずに、一方では増加する人数に対応できるプログラムとなるよう、今後数年かけてプログラムの見直し、検討を行いたい。

---

<sup>1</sup> 総合日本語演習 A・B は学部留学生と交換学生が履修する合併科目。

<sup>2</sup> アカデミック日本語は 14 回中 11 回、総合日本語演習 A・B は 14 回の全授業の参加。